

クニマッスン

出生地 忍野村

山梨県水産技術センター

口癖 でまっすん..



『今日は、静岡県立美術館で開催されている特別展「富士山」—信仰と芸術—の図録の話だったな。忍野村には、本当にたくさんのお宝があるんじやが、富士山と結びつきの深いものでは、日本の宝と言ってもおかしくないものがあるんじやよ。』

『日本の宝??講左衛門さん、おいらの頭の中に忍野村のお宝がいくつも浮かんでいるけど、それは少し大げさなような気がするでまっすん。そのお宝は、なんでまっすん?』

『忍草の浅間神社にある三神像じゃよ。前回話したように、山梨と静岡両県にとって、この特別展は「富士山」が文化遺産であることを、知らしめるための集大成と言っても過言ではないほど思いが込められているんじやよ。この特別展に山梨県としては、どうにかして三神像を展示したかったんじやよ。結論は、だめだったんじやがな。なぜ、それほど三神像が重要かということが、展示されていないのに図録で紹介されているんじやよ。「忍野村の忍草浅間神社には、女神座像並びに男神座像二軀のあわせて三軀が伝来する。(中略)本三尊像については、富士縁起のかぐや姫モチーフを反映したものであるとの見方もある。女神像が浅間神社すなわちかぐや姫であり、他二神像が、養父母である翁と媪すなわち鷹飼(愛鷹)明神と犬飼明神とする考えである。江戸時代の弘化4年(1847)に下絵が整えられた[富士山真景図]に収録されているかぐや姫伝説では、帝の求婚の勅使を避けて姫が身を隠したのは忍野村の忍草とされる。かぐや姫は、足機山に籠もって機を織り、翁と媪は愛鷹山と足柄山に隠れて、それぞれ後に神になったという内容であるが、その成立をかんがみれば、むしろ像の存在に影響をうけた可能性も指摘されている。(省略)」と書かれておるんじや。断定できる話ではないんじやが、面白いと思わんか。富士山という山から様々なドラマが生まれたということじゃ。そのような意味を考えると、三神像が忍草の浅間神社にある意味というのは特別なことなんじやよ。このような史実があることを多くの人に知ってもらいたいのう。山梨県立博物館では10月24日(土)から11月30日(月)まで開催されるぞ。是非、多くの方に足を運んでほしいのう。』

『それは、凄い話でまっすん。次回はどんな話でまっすん。』

『10月3日(土)東円寺において、「不二の祈り」という富士山1合目鈴原大日堂に祀られていた不動明王の御前で、千日回峰行者上原大阿闍梨様が護摩を厳修されるんじやが、その様子を話そうと思っておるぞ。』

『今年も上原大阿闍梨様にお越しいただけて、本当にありがたいことでまっすん。多くの方の祈りが届くといいでまっすん。』

「不二の祈り」 平成27年10月3日(土)

午前10時より受付

午前11時より護摩供厳修・お加持・ご法話



ふじのだいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳
職業 大我講の先達
(先達とは案内責任者)